

## 機械鑑定に係る技術検討チーム（第2回）概要

### 1 開催日

令和3年9月24日

### 2 開催方法

書面による開催

各委員へ事前（9月17日）に資料を送付し、議事次第（1）について書面で回答や意見を求めたもの。

### 3 委員（50音順、敬称略）

梅本典夫、江渡浩、大坪研一（座長）、郡司和久、田中秀幸、馬場利紀、日高靖之、横田修一計8名

### 4 検討事項

測定機器による白未熟粒及び容積重の測定結果について

### 5 検討結果

各委員に対し、「資料1「測定機器による白未熟粒及び容積重の測定結果について」を踏まえると、農産物検査で白未熟粒、容積重を測定するに当たり、穀粒判別器、ブラウエル穀粒計及び電気式穀粒計は十分な測定精度が確保できていると考えられるか」について意見を求めたところ、全委員より「十分な測定精度が確保できている」との回答があった。

また、併せて以下の意見があった。

- 白未熟粒及び容積重の機械判定について、十分に検討された試験条件のもと、精度の高い結果が得られ、両項目とも機械判定が可能であると判断しました。
- 白未熟粒に関しては平均値のずれが1粒未満、標準偏差も1粒程度であり、非常に高い真度、精度で測定できていることがわかり、十分な精確さを有しているとみなすことができます。ただ、平均値からのずれがすべてマイナス側、つまり見逃しであるので、中長期の将来の課題として消費者保護の観点からもさらなる認識率の向上を目指していただきたいと思っております。

容積重に関しては、日本で採用されている2つの手法の高い一致性が確認できました。真値がわからないものを測定することになっておりましたが、ここまで一致していれば十分な精確さがあると判断できるかと思えます。一方ヘクトリットル計とは測定原理の違いからか値のずれが見てとれます。現状日本で流通する米に対する検査であるので問題はないかと思えますが、今後海外への輸出等を考慮した場合には、問題が出る可能性はありますので、こちらの対応も中長期の将来の課題としていただければよいかと思えます。

— 以上 —